

環境 NEWS (第35回)



全日本サーフキャスティング連盟本部 環境部

皆さまは「鳴り砂(鳴き砂)」をご存じでしょうか。
代表的なものとして「琴引浜(京都府京丹後市)」、「十八鳴浜(宮城県気仙沼)」、「琴ヶ浜(島根県大田市)」などがあります。

島根県大田市が有する貴重な資源である「琴ヶ浜」の鳴り砂を核として、砂にちなんだ文化の調査研究、地域間交流、産業振興等を行い、もって個性的な地域文化を創造し、地域社会の文化的・経済的振興を図ることを目的とする公益財団法人シルバーランド振興事業団が設立した「仁摩サンドミュージアム」の役員の方にたまたまお会いする機会があり、いろいろとお話をお聞きすることが出来ました。

その中で、「鳴り砂」を継承保存するためには、プラスチックゴミなどの目に見えるゴミだけの問題では無いそうで、浜を訪れる人々の靴にも問題があるとのこと。砂浜を歩くと靴のゴム底が削れて砂の汚染源となり、本来は好ましいことではないそうです。かといって、観光客には来て欲しいのが本音。矛盾があり、悩ましいところだそうです。

「では、靴で入らずに、裸足で入れれば良いのでは？」と短絡的な質問してみたところ、人の脂が砂に付くため、これも好ましいことではないとのこと。難しい問題なのですね。

やはり、「鳴り砂」は遠くから眺めるのが一番良いのかな？ そうなると、「キュツ、キュツ」という音を聞くことは出来ませんけどね。

鳴り砂とは、丸みを帯びた石英が65%以上含まれ、外部より急激な力を加えると音を発する砂のことをいいます。

鳴り砂の浜は日本で約30カ所確認されていますが、浜がゴミ等で汚れていないことや砂粒がほぼ均一であることなど稀な条件下で鳴り砂になります。浜の全域にわたってよく鳴る砂浜は、今では数えるほどになってきて、500万年と言う悠久の時に育まれたこの奇跡の浜「琴ヶ浜」は、日本有数の鳴り砂海岸として注目されています。



延長約1.4km。この海岸は、歩くときキュッキュツと琴の音のように鳴り、美しい微小貝を含んだ「鳴砂」の浜として知られています。音は最も美しい音色のミュージカルサウンドで、気の遠くなるような大自然の営みが生み出した「妙技」「至宝」とさえ言えるでしょう。



NIMA SANDMUSEUM

仁摩サンドミュージアム

島根県
大田市
観光サイト